

人、ま、ち ニュース

なんと、ツバメの巣3つも“木田マンション”



「巣が二つも増えちゃったのよ」
平・下大越、農産物直売所「新舞子ファーム・キダ」代表、木田テイ子さん（七三）は、こう言って店舗兼自宅の玄関をうれ

しそくに眺める。視線の先には、ツバメの巣Ⅱ写真Ⅱが三つあり。木田さん方には例年、春から秋にかけてツバメが飛来。玄関上部の小壁に巣を作り、三回ほど産卵と子育てを行っている。木田さんは日中、エサが運びやすいよう玄関を開け、子育てを応援。今年は五月に六羽のひなが卵からかえり（本誌七月号で既報）、六月中旬に巣立ったが、ひなたちが飛び立った直後、例年とは違う展開が待っていた。

「ほかのツバメたちが泥や枯れ草を運んできて、巣が三つになっちゃったの。ツバメ屋敷」になつたら困るけど、かわいから諦めました」と、木田さん。
新しくできた巣は、いずれも玄関周辺。雨風がしのげ、日中は出入り自由、カラスの被害もない。安全地帯だ。知人からは「ツバメの高級マンション」とも称されている。
ツバメは生後一年で繁殖を行うとも言われ、「一緒に飛来した兄妹たちが巣を作ったのかしら」と、木田さん。
同店では、甘いホワイトコーン「白馬の王子」を販売中。問い合わせは、同店（電話三四二六八一）まで。

新理事長に本多専務 いわ信で総代会、役員改選



本多新理事長

いわき信用組合は六月十七日、鹿島町のパレスいわいで、第七十四期（令和三年度）通常総代会を開いた。冒頭、江

尻次郎理事長は、「預金残高が二千十一億円余と、はじめて二千億円を超えることができました」と、あいさつ。

同期決算は、十期連続の黒字を確保。コロナ禍の資金繰り支援を主とした融資の増加と、有価証券の売却益などで、一般企業の売上高にあたる経常収益は前年比二・五二％の増収。大口貸し出し先の不良債権処理費用と、それに伴う与信費用



総代会で信組の取り組みなどを説明する江尻氏

などが増加し、経常利益、純利益は、ともに約五〇％の減益となった。金融機関の健全性を示す自己資本比率は一七・五六％と、前年から〇・八二ポイント

増加した。
また、任期満了に伴う役員改選が行われ、江尻次郎理事長が会長に、本多洋八専務理事が理事長に、坪井信浩常務理事が専務理事に昇任した。
本多新理事長は、平成三年、同信組に入職。融資部部长、常勤理事などを歴任し、クラウドファンディング、地域振興ファンドなどの事業を積極的に推進してきた。
本多新理事長は「新たな体制のもとで『地域を丸ごと支える金融機関』として前進していきたい」と、抱負を述べた。

いわきコンカレが ラトブでPR活動

いわきコンピュータ・カレッジ（田口周二校長）は六月十八日、平のラトブ一階ふれあい広



AIロボットを使用したプログラミングの体験学習

場（西側エスカレーター付近）、同館内平七小の二カ所、学外PR活動を行った。
同企画は、自立歩行可能なロボット「NAO」や、ドローン、MR（複合現実）ヘッドセットなど、同校が所有する最先端機材などを使って、市内の小中学生、高校生らが集まるスペースを借り、入学希望者の増加を企図して、定期的に開いていた。
一昨年、昨年はコロナ禍で、校外でのPR活動は自粛したが、陽性者数が落ち着いただけから、感染症対策を十分に行った上で、三年ぶりの実施となった。

当日は、約四十人が会場を訪れ、学生らが製作したVR（仮想現実）ゲーム、AIロボットを使用したプログラミング講座などを体験学習した。
同校は八月二十日、女子だけを対象にしたオープンキャンパスを開く。詳細などは同校（電話五六〇七一一）まで。